

5月31日

## 行政や関係団体との連携強化 連合町内会定期総会

連合町内会（染谷仁也会長）の令和6年度定期総会が社会福祉センターで開催され、各町内会長や役員約50人が出席し、新年度の事業計画や予算を決めました。

総会では始めに、長年にわたって連合町内会役員や町内会長を務めた17人が表彰されました。表彰後、染谷会長は「行政や関係団体と連携しながら、町内会の取り組みを支えていきたい」とあいさつを述べました。



町内会長20年の表彰を受ける河原町内会の峯田悟会長

5月25日

## 木との触れ合いで自然を知る ふるさと未来塾開講式

ふるさと未来塾の開講式と1回目の講座が、社会福祉センターと縫別自然の家で開かれました。

今年度は小学生24人が登録。開講式後に行われた講座では、2チームに分かれて、丸太転がしリレーや木片を早く積み上げるリレーを行ったほか、午後からは、二酸化炭素が地球温暖化につながっているのかを確かめる実験を行い、環境についての理解を深めました。



縫別自然の家で行われた「丸太転がしリレー」

5月23日

## バレーボールを通じて交流 藤原獎太選手と練習

日本バレーボールリーグ機構のVリーグディビジョンIに所属する「VC長野トライデンツ」の藤原獎太選手が、町総合体育館で行われた庶路ビクトリースポーツ少年団（13人所属）の練習に参加しました。

白糠町出身の藤原選手は、スポーツを通じた社会貢献活動の一環として、オフシーズンを利用して練習に参加。少年団の選手たちと「パス練習」や「ミニゲーム」を通して交流を深めました。

ミニゲーム後、藤原選手は「お見合いで簡単にボールを落としてしまう場面があったので、元気よく声を掛け合って、無駄な失点をなくすことが大事」などとアドバイスを送りました。

練習を終えた藤原選手は「少しでも子どもたちの力になれたらうれしいです。子どもたちといろいろな話をして、とてもいい経験になりました」と笑顔で話してくれました。

みすおうき  
庶路ビクトリーの三栖逢喜主将（庶路6年）は「一緒に練習ができてうれしかったです。藤原選手はすごくうまく勉強になりました」と喜んでいました。



藤原獎太選手は1998年7月14日生まれ、白糠町出身。身長190cm、体重87kg。小学4年でバレーボールを始める。庶路小学校卒業後、駿台学園中学校・高等学校へ進学。高校3年時にはインターハイ、国体、春高の三冠を獲得。日本体育大学を経て、Vリーグ選手となる。

6月2日

## 5年ぶりの開催で26チームが熱戦 道東小学バレーボール大会

第45回道東小学バレーボール大会（町バレーボール協会主催）が総合体育館で開かれ、釧路、根室、十勝、オホーツクのチームがトーナメント戦で競いました。

男女混合の部に14チーム、女子の部に12チームが出場。男女混合の部で庶路ビクトリーが優勝しました。

庶路ビクトリーの山中翔副主将（庶路6年）は「地元の大会で優勝できてうれしいです」と喜んでいました。



整備した「縫別自然の家」の花壇の前で記念撮影

6月2日

## 色鮮やかな花で出迎え 縫別自然の家花壇づくり

縫別地区協議会（石田正義会長）は、「縫別自然の家」と「縫別集会所」の花壇に色鮮やかな花の苗を植えました。

会員14人と町職員2人が町花のキンセンカをはじめ、パンジー、マリーゴールド、サルビアなど、約2時間かけて245株を植えました。石田会長は「縫別に訪れる人をきれいな花で迎えたい」と話していました。



1回戦は庶路ビクトリー(黄色ユニホーム)と稻田JVC(帯広)

5月24日

## 地熱発電と掘削技術を学ぶ 掘削技術専門学校が出前授業

掘削技術専門学校の出前授業が白糠高校で行われ、1年生22人が地熱発電や掘削技術について学びました。

専門学校の島田邦明理事は「地熱発電は純国産エネルギー。国内で供給できることが重要です」と説明。

授業を受けた今野仁さんは「二酸化炭素の排出を減らすことが重要で、地熱発電は二酸化炭素の排出が少ないことを知り勉強になりました」と話していました。



ピット(掘削刃)を手に、掘削の仕組みを説明する島田理事

5月24日

## 大きく育ってほしい 令和6年度 白糠町植樹祭

緑化推進委員会主催の「白糠町植樹祭」が、庶路乳呑町有林で行われ、町民や林業関係者、白糠高校の1年生22人など約120人がトドマツ400本を植えました。

あいにくの雨の中、参加者はスコップを手に穴を掘り、トドマツの苗木を丁寧に植えました。参加した高校生たちは「いい経験になりました」「大きく育ってほしい」と目を輝かせていました。



トドマツを植える白糠高校の1年生